出来形管理基準及び規格値(単位:mm)

			条		工 種		測定項目	規 格 値	測定基準	測定箇所	摘要
6 道 路 編	1道路改良	3工場製作工	2	1	遮音壁支柱製作工	部 材	部材長□(m)	±3Ln 10 ±4Ln>10	図面の寸法表示箇所で測定。		
6 道 路 編	1道路改良	3 工場製作工	2		遮音壁支柱製作工 (工場塗装工)				第 1 編 3-3-15 工場塗装工に準ずる。		
6 道 路 編	1 道路改良	4 法 面 工	2		植生工				第 1 編 3-3-7 植生工に準ずる。		
6 道 路 編	1 道路改良	4 法 面 工	3		法面吹付工 (コンクリ-ト) (モルタル)				第 1 編 3-3-6 吹付工に準ずる。		
6 道 路 編	1 道路改良	4 法 面 工	4		法枠工				第 1 編 3-3-5 法枠工に準ずる。		
6 道路編	1 道路改良	4 法 面 工	5 6		アンカ-工 プレキャスト法枠工		削孔深さ L 配置誤差 d せん孔方向	設計値以上 100 ± 2.5 度	全数(任意仮設は除く)		

編	章	節	条	枝番 工種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所 摘要
6道路編	1道路改良	4 法面工	7	1 かご工 (じゃかご)	法長 🛚 < 3m 法長 Lū 3m 厚 さ t	-50 -100 -50	施工延長 20mにつき 1 箇所、延長 20m以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。	
6道路編	1 道路改良	4法面工	7	2 かご工 (ふとんかご)	高 さ h 延長 L ₁ , L ₂	-100 -200	施工延長 20mにつき 1 箇所、延長 20m以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎	L ₁
6 道 路 編	1 道路改良	5 擁 壁 工	3	既製杭工			第1編 3-4-4 既製杭工に準ずる。	
6 道 路 編	1道路改良	5 擁壁工	4	場所打杭工			第 1 編 3-4-5 場所打杭工に準ずる。	

紤	章	節	条	枝番	工種	測 定 項 目	規 格 値	測定基準	測 定 箇 所 摘要
6	1	5	5		現場打擁壁工	基 準 高	± 50	施工延長 20mにつき 1 箇所、延長 20m以下のものは 1 施工箇所につ	W ₁
追	道 道 路 路	擁 壁				厚 さ t	-20	き2箇所。	l <u>~</u> 1
路線	日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日	工				裏 込 厚 さ	-50		/
""	良					幅 W ₁ , W ₂	-30		/
						高 h < 3m	-50		/ h
						t h 3m	-100		/ "
						 延 長 L	-200	1 施工箇所毎	
									w ₂
									$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$
6 追	道道	5 擁	6		プレキャスト擁壁工	基 準 高	± 50	施工延長 20mにつき 1 箇所、延長 20m以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。	<u> </u>
路線	路	壁工				延長し	-200	1 施工箇所毎	
孙	改良	I							

編	章	節	条	枝番	工種		測定項目	規格値	測定基準	測 定 箇 所 摘要
6	1	5	7		補強土壁工		基 準 高	± 50	施工延長 20mにつき 1 箇所、延長 20m以下のものは 1 施工箇所につ	۸ ۸
道	道	擁				高	h < 3m	-50	き 2 箇所。	Δ Δ
路編	道路改良	壁工				さ h	h 3m	-100		
	R						鉛 直 度	±0.03hかつ±300 以内		T #
						控 え	ジオブロック工法	設計値の長さに対し、 0~-100		h h h h h
						長 さ	ワイヤ-ウォ-ル工法	製作の長さに対し、 -5~+25		
							延 長 L	-200	1 施工箇所毎	
6	1	5	8		井桁ブロック工		基 準 高	± 50	施工延長 20mにつき 1 箇所、延長 20m以下のものは 1 施工箇所につ	. L.
道 路	追り	擁 壁				法	h < 3m	-50	き 2 箇所。	
編	道路改良	Ĭ				長	h 3m	-100		
	R						厚さt ₁ ,t ₂ ,t ₃	-50		
							<u>延 長 L₁, L₂</u>	-200	1 施工箇所毎	L ₂
										t 2 t 1 t 2 t 2 t 2 t 2 t 2 t 3m

編	章	節	条	枝番	工種	測 定 項 目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
6	1	5	9		小型擁壁工	基 準 高	± 30	施工延長 20mにつき 1 箇所、延長 20m以下のものは 1 施工箇所につ		
道	道 路 改	擁				幅 W ₁ , W ₂	-30	き2箇所。	₩ı → k-	i l
路編	路	壁工				高 さ h	-50	1	<u> </u>	i
hilli	良					延 長 L	-200	1 施工箇所毎	/ h	i
]	/] "	i
										i
									\mathbf{w}_2	i
										ł
6 道	1	5	10		土留·仮締切工			第 1 編 3-10-5 土留・仮締切り工に準ずる。		i
り 担 と 路	道 路	擁 壁								i
編	改	エ								i
	良									
6 当	1	6 —	3		コンクリ-トプロック工			第 1 編 3-5-3 コンクリートブロック工に準ずる。		i l
道 路	道 路 改	11 ·								i
編	改	ブ								i
	良	П								i
		ツ ク								i
		積								i
		(i
		張、								i
		, T								i l
6	1	6	4		緑化ブロック工			第 1 編 3-5-4 緑化ブロック工に準ずる。		
道	道	石								i
路編	路 改	ブ								i
in kvi	良									i
		ツ								i
		ク き								i
		積 (i
		張								i
)								i
		エ								i

出来形管理基準及び規格値(単位:mm)

編	章	節	条	枝番	工 種		測定項目	規 格 値	測定 基 準	測 定 箇 所	摘要
6道路編	道路改良	6石・ブロック積(張)工	5		石積(張)工				第1編3-5-5石積(張)工に準ずる。		
6		7	6		現場打カルバ-トエ		基 準 高	± 30	両端、施工継手及び図面の寸法表示箇所で測定。	+. +	
道 路		カル					厚さ t ₁ ~t ₄	-20		t _{1 W} t ₂ L	
編		バ					幅(内法) w	-30			
	良	-					高 さ h	± 30		t ₁ +	
		<u>۲</u>				延	L < 20m	-50		$ h \nabla $	
		一				長	L 20m	-100		t ₄ +	

編	章	節	条	枝番	工種	測 定 項 目	規格値	測定基準	測 定 箇 所 摘要
6		7	7		プレキャストカルバ-ト工	基 準 高	± 30	施工延長 20mにつき 1 箇所、施工延長 20m以下のものは 1 施	L
道	道				(プレキャストボックス工)	幅 w	-50	工箇所につき2箇所。	<u> </u>
路編		ルバ			(プレキャストパイプ工)	高 さ h	-30		
ניוויית	良	- -				延長し	-200	1 施工箇所毎	
		İ							
									h I h
6 道 路 編	道 路	7カルバ - トエ	8		土留·仮締切工			第 1 編 3-10-5 土留・仮締切工に準ずる。	
6 道	1 道	8 小	2		側溝工 (プレキャストU型側溝)	基 準 高	± 30	施工延長 20mにつき 1 箇所、施工延長 20m以下のものは 1 施 工箇所につき 2 箇所。	ПП
路	路	型			(コルゲ-トフリュ-ム)	延長し	-200	1 施工箇所毎	
編	改良	水 路 工			(自由勾配側溝)				
6 道	1 道	8 小	3		管渠工	基 準 高	±30	施工延長 20mにつき 1 箇所、施工延長 20m以下のものは 1 施 工箇所につき 2 箇所。	ر <u></u>
路編	路 改	型 水				延長し	-200	1 施工箇所毎	
valu	良	路							
		エ							100 mars

編	章	節	条	枝番	工種	測 定 項 目	規格値	測定基準	測 定 箇 所	摘要
6	1	8	4		集水桝・マンホ-ル工	基 準 高	± 30	1 箇所毎		
道	道	小				厚さ t ₁ ~t ₅	-20	は、現場打部分のある場合	t ₂	
路編	道 路 改	型 水				幅 W ₁ , W ₂	-30			
nying (良	路				高さ h ₁ ,h ₂	-30		₩,	
		エ							t4	
									t,	
									h h2	
									h,	
									│	
6	1	8	5		地下排水工	基準高	±30	施工延長 20mにつき 1 箇所、施工延長 20m以下のものは 1 施		
道	道	小	3		地下排水工	基 宇 同 幅 W ₁ , W ₂	-50	□ ルエ延長 2011にフォー固州、ルエ延長 2011以下の600は 1.ル □ □ 工箇所につき 2 箇所。	₩,	
路	路	型				™ W1,W2 深 さ h	-30			
編	改良	水路				<i>7</i> , C 11	00	1 施工箇所毎	\ /	
	LX.	工						1 116 12 12 17 1 14	\	
						延長し	-200			
						~ 2 -				
									<u>← ₩2</u> →	
6	1	8	7		現場打(組立)水路工	基 準 高	± 30	施工延長 20mにつき 1 箇所、施工延長 20m以下のものは 1 施	t_1 W t_2	
道 路	道路	小 型				厚さ t ₁ ,t ₂	-20	工箇所につき2箇所。		
編	路改	水				幅 w	-30			
	良	路				高さ h ₁ ,h ₂	-30		" "	
		エ						1 施工箇所毎	$ \mathbf{h}_1 $ $ \mathbf{h}_2 $	
						延長し	-200			
						~ ~ .	200			
									500000	
6 道	1	9 莈	4		落石防止網工	幅 W	-200	1 施工箇所每		
路	道 路 改	落石				延長し	-200	_		
編	改	雪								
	良	害防								
		止								
		エ								

編	章	節	条	枝番	工種		測定	項目	規 格 値	測 定 基 準	測定箇所	摘要
6 道	1 道	9	5		落石防護柵工		高	さ h	± 30	施工延長 20mにつき 1 箇所、施工延長 20m以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。	<u>L</u>	
路編	道 路 改	石雪					延	長し	-200	1 施工箇所毎		
Mili	良	害									h h	
		防 止										
		止工										
6 道	1道路改	9 落	6		防雪柵工		高	さ h	± 30	施工延長 20mにつき 1 箇所、施工延長 20m以下のものは 1 施 工箇所につき 2 箇所。	L	
路編	路山	石雪					延	長し	-200	1 施工箇所毎		
利用	良	害				基礎		幅 W ₁ , W ₂	-30	基礎1基毎	h	
		防						高さ h	-30	_	h	
		止 工									<u> </u>	
											eier to (XXXX)	
											h \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \	
											 	
			_							**************************************		
6 道 路	1 道	9 落	7		雪崩予防柵工		高	à h	± 30	施工延長 20mにつき 1 箇所、施工延長 20m以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。	, >>_ L	
路編	道 路 改	石雪					延	長L	-200	1 施工箇所毎		
Milit	良	害				基礎		幅 W ₁ ,W ₂	-30	基礎 1 基毎		
		防						高 さ h	-30			
		止 工				アンカ-長	Į	打込み	-10%	全数	W ~ 2	
								埋込み	-5%	_		
											w_1 w_2	
	1											

編	章	節	条	枝番	工種	測	定項目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所 摘要
6 道 路 編	1 道路改良	10 遮音壁工	4		既製杭工				第 1 編 3-4-4 既製杭工に準ずる。	
6	1	10	5		遮音壁基礎工	幅		-30	施工延長 20mにつき 1 箇所、施工延長 20m以下のものは 1 施	
道 路	道 路	遮音				高	さ h	-30	工箇所につき2箇所。	W st
編	改	壁				延	長し	-200	1 施工箇所每	f 1
	良	エ								h
6	1	10	6		遮音壁本体工	古	間 隔w	± 15	施工延長 5 スパンにつき 1 箇所	Т
道 路	道 路	遮音				支 柱	ず れ a	10		<u>L</u>
編	改	壁					倒 れ d	h (5 / 1000)		
	良	エ				高	à h	+ 30 , -20		
						延	長し	-200	1 施工箇所毎	
										h liliani

									規格値				
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目		測定値 X)	10 個の測定値の平均 (X ₁₀)	— 測 定 基 準	測 定 箇 所 打	商要	
							中規模以上	小規模以 下	中規模以上				
6	2	3	6	1	半たわみ性舗装工	基準高	± 40	± 50	-	基準高は延長 20m毎に 1 箇所の割とし、道路中心線及び端部	・工事規模の考え方		
道 路	舗装	舗装			(下層路盤工)	厚さ	-4	45	-15	──で測定。 ──厚さは各車線 200m毎に 1 箇所を掘り起こして測定。	中規模とは、1 層あたりの施工面積が 2000 ㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量		
編	20	I				幅		50	-	■ には日単級 20011年に1 箇所で掘り起こりて測定。 ■ に、延長 20m毎に1 箇所の割に測定。	が 500:未満あるいは施工面積が 2000 ㎡未満。 厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満		
6	2	3	6	2	半たわみ性舗装工	厚さ	-25	-30	-8	幅は、延長 20m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、各車線 200m毎に	足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値(X ₁₀)につい		
道路編	舗装	舗 装 工			(上層路盤工) 粒度調整路盤工	幅	-{	50	-	─ 1 箇所を掘り起こして測定。 ── 	て満足しなければならない。ただし、厚さのデ-タ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。		
6	2	3	6	3	半たわみ性舗装工		-25	-30	-8	幅は、延長 20m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1000m2 に 1 個の	・工事規模の考え方	_	
道路	舗装	舗装			(上層路盤工) セメント(石灰)安定処理工	幅		50	- -	■ 割でコア-を採取もしくは掘り起こして測定。 ■	中規模とは、1 層あたりの施工面積が 2000 ㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量		
編		エ									が 500t未満あるいは施工面積が 2000 ㎡未満。		
6	2	3	6	4	半たわみ性舗装工	厚さ	-15	-20	-5	幅は、延長 20m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1000 ㎡に 1 個の			
道路	舗装	舗装工			(加熱アスファルト安定処理工)	幅		50	-	割でコア-を採取して測定。	足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値(X ₁₀)について満足しなければならない。 ただし、厚さのデ-タ数が 10 個未満の場合は関ウなる		
編 6	2	工 3	6	5	半たわみ性舗装工	 厚 さ	-9	-12	-3		合は測定値の平均値は適用しない。 コア-採取について		
道	舗	舗			(基層工)	/チーと 幅		25	-	割でコア・を採取して測定。	橋面舗装等でコア-採取により床版等に損傷を与える恐れのある場		
路編	装	装 工				IH					合は、他の方法によることが出来る。		
6	2 舗	3 舗	6	6	半たわみ性舗装工	厚さ	-7	-9	-2	幅は、延長 20m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1000 ㎡毎に 1 個			
道 路	哉	部 装			(表層工)	幅		25	-	の割でコア-を採取して測定。	中規模とは、1 層あたりの施工面積が 2000 ㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量		
編		Ï				平坦性		. ,	2.4mm 以下 .75mm 以下		が 500:未満あるいは施工面積が 2000 ㎡未満。 厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値(X ₁₀)につい		
6	2	3	7	1	排水性舗装工	基準高	± 40	± 50	-	基準高は延長 20m毎に 1 箇所の割とし、道路中心線及び端部	て満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場		
道	舗	舗			(下層路盤工)	厚さ	-4	1 5	-15	で測定。	合は測定値の平均値は適用しない。		
路編	装	装 工			-	幅		50	-	─ 厚さは各車線 200m毎に 1 箇所を掘り起こして測定。 ─ 幅は、延長 20m毎に 1 箇所の割に測定。	橋面舗装等でコア-採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。		
6	2	3	7	2	排水性舗装工		-25	-30	-8		維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。 		
道	舗	舗			(上層路盤工)	幅	-4	50	-	1 箇所を掘り起こして測定。			
路編	装	装 工			粒度調整路盤工								
6	2	3	7	3	排水性舗装工	厚さ	-25	-30	-8	幅は、延長 20m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1000 ㎡に 1 個の			
道 路	舗装	舗装			(上層路盤工) セメント(石灰)安定処理工	幅		50	-	割でコア-を採取もし〈は掘り起こして測定。	中規模とは、1 層あたりの施工面積が 2000 ㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量		
編	ZX	ĭΙ			ピグノト(石灰)女足処理工					-5 幅は、延長 20m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1000 ㎡に 1 個の	が 500:未満あるいは施工面積が 2000 ㎡未満。		
6	2	3	7	4	排水性舗装工	厚さ	-15	-20	-5		厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満		
道路	舗装	舗装			(加熱アスファルト安定処理工)	幅	(50	-	割でコア-を採取して測定。	足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値(X ₁₀)について満足しなければならない。 ただし、厚さのデ-タ数が 10 個未満の場		
編	- ZX	Ζς Ι									合は測定値の平均値は適用しない。		
											コア-採取について		
											橋面舗装等でコア-採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。		
											口は、心の力はたるのととが山木る。		

	J								規 格 値			
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目		測定値 X)	10 個の測定値の平均 (X ₁₀)	━ 測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
							中規模以上	小規模 以下	中規模 以上			
	2	3	7	5	排水性舗装工	厚さ	-9	-12	-3	幅は、延長 20m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1000 ㎡に 1 個の	・工事規模の考え方	
	舗装	舗装			(基層工)	幅	-2	25	-	割でコア-を採取して測定。	中規模とは、1 層あたりの施工面積が 2000 ㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量	
編	200	I									が 500t未満あるいは施工面積が 2000 ㎡未満。	
6	2	3	7	6	排水性舗装工	厚さ	-7	-9	-2	幅は、延長 20m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1000 ㎡毎に 1 個	厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満	
	舗装	舗装			(表層工)	幅	-2	25	-	の割でコア-を採取して測定。	足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値(X ₁₀)について満足しなければならない。 ただし、厚さのデ-タ数が 10 個未満の場	
編	20	I				平坦性			2.4mm 以下 I.75mm 以下		合は測定値の平均値は適用しない。 コア-採取について 橋面舗装等でコア-採取により床版等に損傷を与える恐れのある場	
_6 道	2	3	8	1	グ-スアスファルト舗装工		-15	-20	-5	幅は、延長 20m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1000 ㎡に 1 個の	□ 一合は、他の方法によることが出来る。	
	舗装	舗 装 工			(加熱アスファルト安定処理工)	幅		50	-	■ 割でコア-を採取して測定。 ■	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
6	2	3	8	2	グ-スアスファルト舗装工		-9	-12	-3	幅は、延長 20m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1000 ㎡に 1 個の	・工事規模の考え方	1
	舗	舗			(基層工)	幅	-2	25	-	割でコア-を採取して測定。	中規模とは、1層あたりの施工面積が2000㎡以上とする。	
路編	装	装 工									小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500t未満あるいは施工面積が 2000 ㎡未満。	
6	2	3	8	3	グ-スアスファルト舗装工	厚 さ	-7	-9	-2	幅は、延長 20m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1000 ㎡毎に 1 個	厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満	
	舗装	舗			(表層工)	幅	-2	25	-	の割でコア-を採取して測定。	足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値(X ₁₀)について満足しなければならない。 ただし、厚さのデ-タ数が 10 個未満の場	
路編	表	装 工				平坦性)2.4mm 以下 1.75mm 以下		合は測定値の平均値は適用しない。 コア-採取について	
											橋面舗装等でコア-採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
道	2 舗 装	3 舗 装	9		コンクリート舗装工					第 1 編 3-6-6 コンクリート舗装工に準ずる。		
編	20	I										
道	2 舗 装	3 舗 装 工	10		薄層カラ-舗装工					第 1 編 3-6-7 薄層カラ-舗装工に準ずる。		
-	2	3	11	1	ブロック舗装工	基準高	± 40	± 50	-	基準高は延長 20m毎に 1 箇所の割とし、道路中心線及び端部	・工事規模の考え方	
	舗	舗			(下層路盤工)	厚さ	-4	45	-15	で測定。	中規模とは、1層あたりの施工面積が2000 ㎡以上とする。	
路編	装	装 工				幅		50	-	一厚さは、各車線 200m毎に 1 箇所を掘り起こして測定。 →幅は、延長 20m毎に 1 箇所の割に測定。	小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500t未満あるいは施工面積が 2000 ㎡未満。	
	2	3	11	2	ブロック舗装工	厚さ	-25	-30	-8	-	■厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満 ■ 足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値(X ₁₀)につい	1
道	舗装	舗装工			(上層路盤工) 粒度調整路盤工	幅	1	50	-		て満足しなければならない。ただし、厚さのデ-タ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	

									規 格 値			
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	個々の (X		10 個の測定値の平均 (X ₁₀)	一 測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上			
6	2	3	11	3	ブロック舗装工	厚さ	-25	-30	-8		・工事規模の考え方	
道 路	舗装	舗装			(上層路盤工)	幅	-5	0	-	割でコア-を採取もしくは掘り起こして測定。	中規模とは、1層あたりの施工面積が2000㎡以上とする。	
編	衣	₹ I			セメント(石灰)安定処理工						小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500t未満あるいは施工面積が 2000 ㎡未満。	
6	2	3	11	4	ブロック舗装工	厚さ	-15	-20	-5	幅は、延長 20m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1000 ㎡に 1 個の	厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満	
道 路	舗装	舗			(加熱アスファルト安定処理工)	幅	-5	0	-	割でコア-を採取して測定。	足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値(X₁0)について満足しなければならない。 ただし、厚さのデ-タ数が 10 個未満の場	
編	衣	装工									合は測定値の平均値は適用しない。	
6	2	3	11	5	ブロック舗装工	厚さ	-9	-12	-3	幅は、延長 20m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1000 ㎡に 1 個の	コア-採取について	
道	舗装	舗装			(基層工)	幅	-2	5	-	割でコア-を採取して測定。	橋面舗装等でコア-採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	
路編	衣	Σ Ι									日は、他のガガになることが出水る。	
6	2	3			步道路盤工	基準高	± (50	-	基準高は片側延長 20m毎に 1 箇所の割で測定。	・工事規模の考え方	
道	舗装	舗			取合舗装路盤工	厚さ	t < 15cm	-30	-10	厚さは、片側延長 200m毎に 1 箇所掘り起こして測定。	中規模とは、1層あたりの施工面積が2000㎡以上とする。	
路編	衣	装 工			路肩舗装路盤工	序 C	t 15cm	-45	-15	╡幅は、片側延長 20m毎に 1 箇所測定。 ■	小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500t未満あるいは施工面積が 2000 ㎡未満。	
mymj						幅	-10	00	-			
											足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X ₁₀)につい	
6	2	3			步道舗装工	厚さ	-(9	-3		て満足しなければならない。ただし、厚さのデ-タ数が 10 個未満の場	
道 路	舗装	舗装			取合舗装工	幅	-2	5	-	200m毎に 1 箇所コア-を採取して測定。	合は測定値の平均値は適用しない。 コア-採取について	
編	衣	χ Ι			路肩舗装工 表層工						橋面舗装等でコア-採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	

編	章	節	条	枝番	工種	測 定 項 目	規格値	測定基準	測 定 箇 所 摘要
6 道	2 舗	4 路	2		側溝工 (L型街渠工)	基準高	± 30	施工延長 20mにつき 1 箇所、延長 20m以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。	ПП
路炉	装	面			(L0型街渠工)	延 長 L	-200	1 箇所 / 1 施工箇所	
編		排 水			(プレキャストU型側溝工) (管(函)渠型側溝工)				
		エ	3		管渠工				
									\ <u> </u>
									2002C
6 道	2 舗	4	4		街渠桝・マンホ・ルエ	基 準 高	± 30	1 箇所 / 施工延長 20m	
旦 路	甜装	路 面			(街渠桝工) (マンホ-ル工)	厚さ t ₁ ~t ₅	-20	は現場打部分のある場合	t, —
編		排			((() () () () () () () () ()	幅 W ₁ , W ₂	-30 -30	_	W ₁
		水 工				高さ h ₁ ,h ₂	-30	-	t ₄ +
									t, W ₂ t ₂
									h. h2
									"'
									t,
6 道	2 舗	4 路	5		排水性舗装用路肩排水工	基 準 高	± 30	施工延長 20mにつき 1 箇所、延長 20m以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。	
路編	装	面 排						1 箇所 / 1 施工箇所	
VALID		水				延 長 L	-200		
6	2	工 5	2		路側防護柵工			第 1 編 3-3-11 路側防護柵工に準ずる。	
道	舗	防						オー 間 ひひ 日 西 関内は 一工に 子 ダ る。	
路編	装	護柵							
VALID		I							
6 道	2 舗	5 防	3		防止柵工			第 1 編 3-3-10 防止柵工に準ずる。	
路	装	護							
編		柵工							
6	2	6	3		小型標識工			第 1 編 3-3-9 小型標識工に準ずる。	
道 路	舗装	標 識							
編		エ							
6 道	2 舗	6 標	4		土留·仮締切工			第 1 編 3-10-5 土留・仮締切工に準ずる。	
路	装	識							
編		エ							

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規 格 値	測定基準	測 定 箇 所 摘要
6道路編	2 舗装	6標識工	5		大型標識工 (標識基礎工)	幅 W ₁ , W ₂ 高 さ h		基礎一基毎	
6 道路編	2 舗装	6 標識工	5	2	大型標識工 (標識柱工)	設置高さ H	設計値以上	1 箇所 / 1 基	H
6 道 路 編	2 舗 装	7道路付属物施設工	3		区画線工			第 1 編 3-3-12 区画線工に準ずる。	
6 道 路 編	2 舗 装	7道路付属物施設工	4		縁石工			第 1 編 3-3-8 縁石工に準ずる。	
6 道 路 編	2 舗装	7道路付属物施設工	7		道路付属物工			第 1 編 3-3-13 道路付属物工に準ずる。	

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目		測定基準		摘要
6	2	7	8		踏掛版工	基準高	± 20	1 箇所 / 1 踏掛版	,,, ,, ,, ,, ,, ,, ,, ,, ,, ,, ,, ,, ,,	3132
道	舗	道			(コンクリート工)	各部の厚さ	± 20	1 箇所 / 1 踏掛版		
路	装	路				各部の長さ	± 30	1 箇所 / 1 踏掛版		
編		付 属			(ラバ-シュ-)	各部の長さ	± 20	全数		
		物			(57,75 = 7	厚さ				
		施			(アンカ-ボルト)	中心のずれ	± 20	全数		
		設			(,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	アンカ - 長	± 20	全数		
		エ				7 7 10 20				
6	2	7	9	1	組立歩道工	基 準 高	± 30	施工延長 20mにつき 1 箇所、延長 20m以下のものは 1 施工箇	ù W	
道	舗	道				幅 w	-30	所につき2箇所。	<u>⊬</u>	
路編	装	路 付				延 長 L	-200	1 施工箇所毎		
제베		属								
		物								
		施								
		設 工							г.,	
		╽┷							<u></u> ,	
		7		0	ルナル学 て	#E				
6 道	2 舗	7 道	9	2	組立步道工 (支柱基礎工)	幅 W	-30	1 箇所 / 1 施工箇所	₩ *	
路	装	路			(文江圣诞工)	高 さ h	-30	_	 	
編		付								
		属							L w	
		物 施							→	
		設								
		エ								
									h	
									_ 	
6	2	7	10	1	ケ-ブル配管工	基準高	± 30	 接続部間毎に1箇所		
道	舗	道				延長し	-200	接続部間毎で全数		
路炉	装	路				72 27 5				
編		付 属								
		物								
		施								
		設								
6	2	工	10	2	ᄹᅼᆘᇒᅉᅮ	甘油点	. 20			
6 道	2 舗	7 道	10		ケ-ブル配管工 (ハンドホ-ル)	基準高	± 30	1 箇所毎 印は、現場打ちのある場合	t,	
路	装	路			(1.52 10.74)	厚さ t ₁ ~t ₅	-20	-1-10/ M-311 2000 a.a.m	w,	
編		付				幅 W ₁ , W ₂	-30 -30	-		
		属 物				高さ h ₁ ,h ₂	-30	-	t4 ±	
		施							t:	
		設							ТП Т П	
		エ							h h	
									h,	
									t,	

出来形管理基準及び規格値(単位:mm)

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所 摘要
6道路編	2舗装	7道路付属物施設工	11		照明工 (照明柱基礎工)	幅 W 高 さ h	-30 -30	1 箇所 / 1 施工箇所	
6 道路編	3橋梁下部	3工場製作工	2		刃口金物製作工	刃 口 高 さ h(m) 外周長 Lo(m)	±2h 0.5 ±30.5 < h 1.0 ±41.0 < h 2.0 ±(10+L/10)	図面の寸法表示箇所で測定。	h

編	章	節	条	枝番	工種		測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所 摘要
6 道 路 編	3橋梁下部	3工場製作工	3		鋼製橋脚製作工	部材	脚柱とベ-スプレ-トの鉛直度 (mm)	w/500	各脚柱、ベ-スプレ-トを測定。	脚柱 δ ・ ベースプレート
							孔の位置	±2	全数を測定。	
							ベース ブレート 孔 の 径	0~5	全数を測定。	0 8
						仮		±5L 10m ±1010 < L 20m ±(10 + (L-20)/10)20m < L	両端部及び片持ばり部を測定。	L L
						組立時	はりのキャンバ-及び柱の曲がり (mm)	L/1,000	各主構の各格点を測定。	る ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま
							柱の鉛直度 (mm)	10H 10 H/1,000 H > 10	各柱及び片持ばり部を測定。	
6 道 路 編	3 橋梁下	製	4		アンカ-フレ-ム製作工	仮	上面水平度 1(mm) 鉛 直 度 2(mm)	b / 500 h / 500	軸心上全数測定。	
	部	作工				組立時	高さ h(mm)	±5		h TT T
6 道 路 編	3橋梁下部	3 工場製作工	5		仮設材製作工	部材	部材長 Lī(m)	±3 Ln 10 ±4 Ln>10		
6 道 路 編	3橋梁下部	3工場製作工	6		工場塗装工				第 1 編 3-3-15 工場塗装工に準ずる。	

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測定箇所	摘要
6 道 路 編	3橋梁下部	4橋台工	3		既製杭工			第 1 編 3-4-4 既製杭工に準ずる。		
6 道 路 編	3橋梁下部	4橋台工	4		場所打杭工			第1編 3-4-5 場所打杭工に準ずる。		
6 道 路 編	3橋梁下部	4橋台工	5		深礎工			第 1 編 3-4-6 深礎工に準ずる。		
6 道 路 編	3橋梁下部	4橋台工	6		オ-プンケ-ソン基礎工			第 1 編 3-4-7 オ-プンケ-ソン基礎工に準ずる。		
6 道 路 編	3橋梁下部	4橋台工	7		ニュ-マチックケ-ソン基礎工			第 1 編 3-4-8 ニュ-マチックケ-ソン基礎工に準ずる。		
6 道	3	4	8		躯体工	基 準 高	± 20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇	w ₂ w ₁ w ₂ w ₁	
路	橋 梁	橋台				厚 さ t	-20	所。	 	
編	梁下部	Ī				天 端 幅 W ₁ (橋軸方向)	-10		h_2 \downarrow h_2	
						天 端 幅 W ₂ (橋軸方向)	-10		t hi	
						敷 幅 W3 (橋軸方向)	-50			
						高 さ h ₁	-50]		
						胸壁の高さ h ₂	-30	1	•	
						天端長山1	-50	4	***1	
						敷 長 ഥ₂	-50	4	W2 W1 W2 W1	
						胸壁間距離 Lo	± 30		HI HI	
						支 間 長 及 び 中心線の変位	± 50	=	h ₁ h ₂ h ₂	

編章	節	条	枝番 工 種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測定箇所	摘要
6 道路 深下部	4 橋 台 工		土留·仮締切工			第 1 編 3-10-5 土留・仮締切工に準ずる。		
6 道 路 深 下 部	橋台工		地中連続壁工(壁式)			第 1 編 3-10-8 地中連続壁工(壁式)に準ずる。		
6 3 道 橋 路 深 編 下	橋台工		地中連続壁工(柱列式)			第 1 編 3-10-9 地中連続壁工(柱列式)に準ずる。		
6 3 橋路 深下部	R C 橋		既製杭工			第 1 編 3-4-4 既製杭工に準ずる。		
6 3 橋 路 編 下部	R C 橋		場所打杭工			第 1 編 3-4-5 場所打杭工に準ずる。		
6 3 橋路 第 下部	R C 橋		深礎工			第 1 編 3-4-6 深礎工に準ずる。		
6 3 橋路 不部	R C 橋		オ-プンケ-ソン基礎工			第 1 編 3-4-7 オ-プンケ-ソン基礎工に準ずる。		
6 3 7 7 3 7 3 7 3 7 3 7 3 7 3 7 3 7 3 7	5 R C 橋	7	ニュ-マチックケ-ソン基礎工			第 1 編 3-4-8 ニュ-マチックケ-ソン基礎工に準ずる。		
6 3 道 橋 路 深 編 下	5 R C 橋	8	鋼管井筒基礎工			第1編 3-4-9 鋼管井筒基礎工に準ずる。		

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所 摘要
6	3	5	9		RC躯体工	基 準 高	± 20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇	
道	橋	R			(張出式)	厚 さ t	-20	所。	_ + + + + + + + + + + + + + + + + + + +
路編	橋梁下部	C 橋 脚			(重力式) (半重力式)	天 端 幅 W ₁ (橋軸方向)	-20		
	П	Ī				敷 幅 W ₂ (橋軸方向)	-50		$\left\{ \left\langle \left\langle \right\rangle \right\rangle \right\} \right\} \left\{ \left\langle \left\langle \right\rangle \right\rangle \right\} \left\{ \left\langle \left\langle \right\rangle \right\rangle \right\} \right\} \left\{ \left\langle \left\langle \left\langle \right\rangle \right\rangle \right\rangle \right\} \left\{ \left\langle \left\langle \left\langle \right\rangle \right\rangle \right\rangle \right\} \left\{ \left\langle \left\langle \left\langle \left\langle \right\rangle \right\rangle \right\rangle \right\rangle \right\} \left\{ \left\langle \left\langle \left\langle \left\langle \left\langle \left\langle \left\langle \left\langle \right\rangle \right\rangle \right\rangle \right\rangle \right\rangle \right\rangle \right\} \left\{ \left\langle $
						高 さ h	-50		
						天端長山	-50		F W2 → F €2
						敷 長 Lū ₂	-50		127.
						橋脚中心間距離 Lo	± 30		_
						支 間 長 及 び 中心線の変位	± 50		
									$\begin{array}{c c} & t \\ \hline \downarrow \\ \hline \end{array}$
6	3 橋梁下	5	9		RC躯体工	基 準 高	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇	W ₁
道	橋沙	R C			(ラ-メン式)	厚 さ t	-20	所。	├ ┥
路編	下	橋				天 端 幅 W ₁	-20		— ፟፟፟ ጟ
	部	脚				敷 幅 W ₂	-20		i
		エ				高 さ h	-50		h
						長さに	-20		
						橋脚中心間距離 L□	± 30		↓ () I t
						支 間 長 及 び 中心線の変位	± 50		- w ₂ →
									h t t t t w 2 w 2
6 道 路 編	3橋梁下部	5RC橋脚工	10		土留·仮締切工			第 1 編 3-10-5 土留・仮締切工に準ずる。	
6 道路 編	3橋梁下部	6鋼製橋脚工	3		既製杭工			第 1 編 3-4-4 既製杭工に準ずる。	

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規 格 値	測定基準	測 定 箇 所	摘要
6 道 路 編	3橋梁下部	6 鋼製橋脚	4		場所打杭工		170 170 1000	第 1 編 3-4-5 場所打杭工に準ずる。		
6 道 路 編	3橋梁下部	工 6 鋼製橋脚工	5		深礎工			第 1 編 3-4-6 深礎工に準ずる。		
6 道 路 編	3橋梁下部	6 鋼製橋脚工	6		オ-プンケ-ソン基礎工			第 1 編 3-4-7 オ-プンケ-ソン基礎工に準ずる。		
6 道 路 編	3橋梁下部	6 鋼製橋脚工	7		ニュ-マチックケ-ソン基礎工			第 1 編 3-4-8 ニュ-マチックケ-ソン基礎工に準ずる。		
6 道 路 編	3橋梁下部	6 鋼製橋脚工	8		鋼管井筒基礎工			第 1 編 3-4-9 鋼管井筒基礎工に準ずる。		
6道路編	3橋梁下部	6鋼製橋脚工	9	1	橋脚フ-チング工 (!型・T型)	基準高 幅 w (橋軸方向) 高 さh 長 さLロ	± 20 -50 -50 -50	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。 -	h h h h h	
6 道路編	3橋梁下部	6鋼製橋脚工	9	2	橋脚フ-チング工 (門型)	基 準 高 幅 W ₁ ,W ₂ 高 さ h	± 20 -50 -50	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。	h \longrightarrow w_1 \longrightarrow w_2 w_2	

編	章	節	条	枝番	工種		規格値	測定基準	測 定 箇 所 摘要
6	3	6	10		<u>工程</u> 橋脚架設工	基準高	光 1日 恒 ± 20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇	/
道	橋	鋼			(<u>[型·</u> T型)		± 30	所。	$\overline{\qquad}$
路	梁	製				支間長及び			<u></u>
編	下部	橋 脚				中心線の変位	± 50		
	пp	I							
6	3 7	6	10	2	橋脚架設工	基 準 高	± 20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇	П-
道 路	橋梁	鋼製			(門型)	橋脚中心間距離 Lo	± 30	所。	
編	下	橋				支間長及び	± 50		
	部	脚				中心線の変位	- * *		
		エ							
									H I
6	3	6	11		現場継手工	 現場継手部のすき間	5	主桁、主構の全継手数の1/2を測定。	
道	橋	鋼			2017 3000 1 工	1, ₂ (mm)	± 5	は耐候性鋼材(裸使用)の場合	
路	梁	製							
編	下部	橋 脚							
	п	I							
6	3	6	12		現場塗装工	塗 膜 厚	a.ロットの塗膜厚平均値は、目標	塗装終了時に測定する。	
道	橋	鋼制						1 ロットの大きさは 500 ㎡とする。	
路編	梁下	製 橋						1 ロット当たりの測定数は 25 点とし、各点の測定は 5 回行い、その 平均値をその点の測定値とする。	
74119	· 部	脚					c.測定値の分布の標準偏差は、	十つが一ででの点の別だ一つでする。	
		エ					目標塗膜厚合計値の 20%を超		
							えない。ただし、測定値の平均値 が目標塗膜厚合計値より大きい		
							場合はこの限りではない。		
6	3	6	13		土留·仮締切工			第 1 編 3-10-5 土留・仮締切工に準ずる。	
道	橋	鋼							
路編	梁下	製 橋							
利用	部	脚							
		Ĭ							
6	3	7	3		笠コンクリ-トエ			第1編 3-4-3 法留基礎工に準ずる。	
道	橋 梁	護岸	4		法留基礎工				
路編	米下	F T							
	部				<u> </u>				
6	3	7	5		矢板工			第 1 編 3-3-4 矢板工に準ずる。	
道吸	橋	護							
路編	梁下	岸 工							
Walin	部	_							
6	3	7	6		コンクリ-トブロック工			第1編 3-5-3 コンクリ-トブロック工に準ずる。	
道	橋沙	護出							
路編	梁下	岸 工							
vilia	部	_							

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規 格 値	測定基準	測定箇所	摘要
6	3	7	7		護岸付属物工	幅 w	-30	各格子間の中央部 1 箇所を測定。	w	
道路編	橋梁下部	護岸工				高 さ h	-30		h	
6 道 路 編	3橋梁下部	7 護岸工	8		石張り・石積み工			第 1 編 3-5-5 石積(張)工に準ずる。		
6 道 路 編	3橋梁下部	7 護 岸 工	9		法枠工			第 1 編 3-3-5 法枠工に準ずる。		
6 道 路 編	3橋梁下部	7 護岸工	10		植生工			第 1 編 3-3-7 植生工に準ずる。		
6 道 路 編	3橋梁下部	7護岸工	11		覆土工			第 1 編 4-3-5 整形仕上げ工に準ずる。		
6 道 路 編	4 鋼橋上部	3 工場製作工	3桁製作工		桁製作工			第 1 編 3-3-14-1 桁製作工に準ずる。		
6 道 路 編	4 鋼橋上部	3 工場製作工	3 桁製作工		桁製作工 (仮組立による検査を省略する 場合)			第 1 編 3-3-14-2 桁製作工(仮組立による検査を省略する場合) に準ずる。		
6 道 路 編	4 鋼橋上部	3工場製作工	4		検査路製作工	部 材 部材長;L(m)	±3L 10 ±4L>10	図面の寸法表示箇所で測定。		

編	章	節	条	枝番	工種	1	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
6 道 路 編	4 鋼橋上部	3 工場製作工	5		鋼製伸縮継手製作工	部材	部材長w(m)	-5 ~ + 10w 10 -5 ~ + (5 + w/2)w > 10	製品全数を測定。	w	
		_				仮組立時	組合せる伸縮装置との高さの差 1(mm) フィンガ-の食い違い 2(mm)	設 計 値 ±4 ±2	両端及び中央部付近を測定。 - -	<u></u>	
6 道 路 編	4 鋼橋上部	3工場製作工	6		鋼製耐震連結装置製作工	部材	部材長 L(m)	±3L 10 ±4L>10	図面の寸法表示箇所で測定。 	(実測値) δ2	
6 道 路 編	4 鋼橋上部	3工場製作工	7		鋼製排水管製作工	部材	部材長 L(m)	±3L 10 ±4L>10	図面の寸法表示箇所で測定。 		
6 道路 編	4 鋼橋上部	3 工場製作工	8		橋梁用防護柵製作工	部材	部材長 L(m)	±3L 10 ±4L>10	図面の寸法表示箇所で測定。		
6道路編	4 鋼橋上部	3 工場製作工	9		橋梁用高欄製作工	部材	部材長 L(m)	±3L 10 ±4L>10	図面の寸法表示箇所で測定。		

/亡	並	節	42	#+ ∓	⊤ ≇			+19 +1夕 /古	測	定基準	測 定 箇 所 摘要
編	章	빖	示	枝番	工種		測定項目	規格値	プレ-トガ-タ-	トラス・ア-チ等	
6道路編	4鋼橋上部	3工場製作工	10	1	横断步道橋製作工	腹板	ンジ幅w(m) 反高 h(m) 反間隔 b (m)	±2w 0.5 ±30.5 < w 1.0 ±41.0 < w 2.0 ±(3+w/2)2.0 < w	主桁・主構 床組など	各支点及び各支間中央付近を 測定。 構造別に、5部材につき1個抜き 取った部材の中央付近を測定。	h
						板の平	材の腹似	h / 250	主桁	各支点及び各支間中央付近を 測定。	р р
						面 度 (mm	箱桁及びトラス等のフランジ 鋼床版のデッキプレ-ト	b / 150			
						部材精度	フランジの直角度 (mm)	w / 200			w/2
							プレ-トガ-タ- トラス、ア-チ など	±3Ln 10 ±4Ln>10 ±2Ln 10 ±3Ln>10	原則として仮組立をしない部2 	材について、主要部材全数を測定。	
							圧縮材の曲がり (mm)	Lu / 1000		主要部材全数を測定。	$\stackrel{\delta}{\longleftarrow}$

編	章	節	タ	枝番	工 種		測定項目		測定	基準	測 定 箇 所 摘
利用	부						/ 凡	が、1台 I単 	プレ-トガ-タ-	トラス・ア-チ等	
6道路編	4 鋼橋上部	3工場製作工	10	1	横断步道橋製作工		全長、支間長L(m)	± (10+L/10)	主桁、主構全数を測定。		全長 全長
							主桁、主構の中心間距離 B (m)	±4B 2 ±(3+B/2)B>2	各支点及び各支間中央付近を	:測定。	B MANAMA
							主構の組立高さh(m)	±5h 5 ± (2.5+h/2)h > 5	-	両端部及び中心部を測定。	h I
							主桁、主構の通り (mm)	5+L/5 L 100 25L > 100	最も外側の主桁又は主構につい 定。	Nて支点及び支間中央の 1 点を測	主げたし
						仮組立精度	主桁、主構のそり (mm)	-5~+5L 20 -5~+1020 < L 40 -5~+1540 < L 80 -5~+2580 < L 200	各主桁について 10 ~ 12m間隔 を測定。	各主構の各格点を測定。	δ L
							主桁、主構の橋端における出入差 (mm)	10	どちらか一方の主桁(主構)端を	測定。	δ
							主桁、主構の鉛直度 (mm)	3+h/1,000	各主桁の両端部を測定。	支点及び支間中央付近を測定。	δ <u></u> h
							現場継手部のすき間 1, 2(mm)	5 ±5	主桁、主構の全継手数の1/2 は耐候性鋼材(裸使用)の場		δ_1 \rightarrow δ_2

編	章	節	夂	枝番	工 種		測 定 項 目		測 定	基準	測定箇所摘要
利用	早	밊	ボ	仅笛				が、1合 1恒 	プレ-トガ-タ-	トラス・ア-チ等	
6道路編	4 鋼橋上部	3工場製作工	10		横断歩道橋製作工 (仮組立による検査を省略する 場合)		フランジ幅w(m) 腹板高 h(m) 腹板間隔 b (m)	±2w 0.5 ±30.5 < w 1.0 ±41.0 < w 2.0 ±(3+w/2)2.0 < w	主桁、主構 床組など	各支点及び各支間中央付近を 測定。 構造別に、5部材につき1個抜き 取った部材の中央付近を測定。	トラス弦材 ガーター
							板 プレートガーター及びトラス等の	h / 250	主桁	各支点及び各支間中央付近を	ь
							部材の腹板 平 面 度 縦桁等の及びトラス等のフラ ンジ鋼床版のデッキプレ-ト	b / 150		測定。	
						部材精度	フランジの直角度 (mm)	w / 200			w/2
							部 プレ-トガ-タ-	±3L _I 10	原則として仮組立をしない部材	について、主要部材全数を測定。	4
							材 トラス、ア-チ	±4L□>10 ±2L□ 10 ±3L□>10	_		
							(m) 伸縮継手	-5~+10Lu 10 -5~+(5+w/2)Lu>10	1		
							・ 圧縮材の曲がり (mm)	Lu / 1000		主要部材全数を測定。	$\stackrel{\delta}{\longleftarrow}$

4户	幸	66	夕	枝番	工 種	I	測定項目		測 定	2 基 準	測 定 箇 所 摘要
編	章	節	示	仅留			炽 	况 恰 但 	プレ-トガ-タ-	トラス・ア-チ等	
6 道路編	4 鋼橋上部	3工場製作工	10		横断歩道橋製作工 (仮組立による検査を省略する 場合)		全長、支間長L(m)	± (10+L/10)	主桁、主構全数を測定。		全長 全長
							主桁、主構の中心間距離 B(m)	±4B 2 ±(3+B/2)B > 2	各支点及び各支間中央付近を	測定。	B MANAMA
							主構の組立高さ h(m)	±5h 5 ± (2.5+h/2)h > 5	-	両端部及び中心部を測定。	h I
						組	主桁、主構の通り (mm)	5+L/5L 100 25L > 100	最も外側の主桁又は主構につい 定。	Iて支点及び支間中央の 1 点を測	主がたた
						立	架設完了キャンバ- (mm)	L 40 ± 25mm L > 40 ± {25+(L-40)}			
						度	主桁、主構の橋端における出入差 (mm)	10	どちらか一方の主桁(主構)端を	測定。	8 アト ************************************
							主桁、主構の鉛直度 (mm)	3+h/1,000	各主桁の両端部を測定。	支点及び支間中央付近を測定。	δ <u>I</u> h
							現場継手部のすき間 1, 2(mm)	5 ±5	主桁、主構の全継手数の 1 / 2 は耐候性鋼材(裸使用)の場		δ_1 δ_1 δ_2
							平面対角線長 (mm)	15mm			

編	章	節	条	枝番	工種		測 定 項 目	規格値	測定基準	測 定 箇 所 摘要	
6	4	3	11		鋳造費	上下部構	リの古公羊	+ 2	製品全数を測定。		
道	鋼	工			(金属支承工)	造物との接		-0	_		
路編	橋上	場 製				合用ボルト孔		±1	-		
פיוףית	部	作工				16	心 距 > 1000mm 離	± 1.5			
							.,,_		1		
							孔 の 100mm	+ 3 -1			
						アンカ-ボル 孔	ト 直 径 > 100mm	+ 4 -2			
							孔の中心距離	JIS B 0412 並級			
						センタ-ボス	ボスの直径	+ 0 -1			
		場製			ボスの高さ	+ 1 -0					
_				l .	A+\4 #			UO B 5 115			
6 道 路	4 鋼 橋	エ	11				軸及び直角方向の長さ寸法	JIS B 0412 中級	製品全数を測定。		
編	上	製				全 移	L 300mm	± 2			
	部	作工				動量	L > 300mm	±L 100			
							上、下面加工仕上げ	±3			
						組	h 300mm	±3			
						立絶対高さ(H)	h > 300mm	(h/200+3)小数点以下切り捨て			
						普	鋳放し長さ寸法	JIS B 0412 並級			
						通	鋳放し肉厚寸法	JIS B 0412 並級			
						· · · · · · · · · ·	鋳放し加工寸法	JIS B 0405 並級]		
6 道	4 鋼	3 工	11	2	(大型ゴム支承工) w 長さし 5000 1	2 鋳造費 幅 (大型ゴム支承工) w	幅 w	w,L,D 500	0~+5	製品全数を測定。	補強材
路編	鋼橋上部	場製作工				L	w,L,D 00mm	0~+1%		t J	
						直 径 D	1500 < w,L,D	0~+15		te w	
						厚	t 20mm	0~+1			
						ਰ	20 < t 160	0 ~ +5%]		
						t	160 < t	0~+8			
							平 面 度	±1			
					平 行	te 16	±1				
						行 度	te > 16	10%			

編	章	節	条	枝番	工種		測定項目	規格値	測定基準	測 定 箇 所 摘要
6	4	3	12		アンカ-フレ-ム製作工		上面水平度 1(mm)	b / 500	軸心上全数測定。	
道	鋼	I					鉛直度 ₂ (mm)	h / 500		ь
路編	橋上部	場製作工				仮組立時	高さ h(mm)	±5		$\begin{array}{c c} & & & \\ & & & \\ h & & & \\ \hline & & & \\ h & & & \\ \hline & & & \\ & & & \\ \hline & & & \\ & & & \\ \hline & & & \\ & & & \\ \hline & & \\ & & \\ & & \\ \hline & & \\ \hline & & \\ & & \\ \hline & & \\$
6	4	3	13						図面の寸法表示箇所で測定。	
_6 道	4 鋼	エ			以以识代代工					
路	橋	場				部 材	部材長 L(m)	±3L 10		
編	上部	製 作				₩	,	± 4L > 10		
		ĭ								
6 道	4 鋼	3	14		工場塗装工		塗 膜 厚		工場塗装終了時に測定。ただし、工場で上塗りまで塗装する場合	
路	楢	工場							は、下塗り終了時と上塗り終了時に測定。なお、鋼橋塗装便覧に いうC塗装系の場合は、無機ジンクリッチペイントの塗布後にも測	
路編	上	製						厚合計値の70%以上。	定。	
	部	作							1 ロットの大きさは、500 ㎡とする。	
		I							1 ロット当たり測定数は 25 点とし、各点の測定は 5 回行い、その平均値をその点の測定値とする。	
								が目標塗膜厚合計値より大きい	均値をその点の測定値とする。	
								場合はこの限りではない。		
6	4	4			架設工		全 長・支 間	-	各桁毎に全数測定。	
道 路	鋼橋	鋼 橋	4 5		(クレ-ン架設) (ケ-ブルクレ-ン架設)	桁	j・トラスの中心間距離	-	一連毎の両端及び支間中央について各上下間を測定。	
編	上	架	6		(ケ-ブルエレクション架設)		7 10		主桁、主構を全数測定。	
	部	設	7 8		(架設桁架設)		そり	L>40m ± {25 + (L-40)}		
		I	9		(送出し架設) (トラベラ-クレ-ン架設)			. (2 10))		
6	4	4	10		現場継手工	1		5	上 主桁、主構の全継手数の 1/2 を測定。	
道	鋼	鋼			. 70 STMC 3		1, 2(mm)	±5	は耐候性鋼材(裸使用)の場合	
路炉	橋	橋加								
編	上部	架設								
		Ĭ								
6	4	5	3		現場塗装工		塗 膜 厚	a.ロットの塗膜厚平均値は、目標		
道 路	鋼橋	橋 梁							1 ロットの大きさは 500 ㎡とする。 1 ロット当たりの測定数は 25 点とし、各点の測定は 5 回行い、その	
編	上	現							T ロットヨだりの測定数は 25 点とし、音点の測定は 5 凹行れ、その 平均値をその点の測定値とする。	
	部	場						c.測定値の分布の標準偏差は、		
		塗工						目標塗膜厚合計値の 20%を超		
		I						えない。ただし、測定値の平均値が日標途時原会計値より大きい		
								が目標塗膜厚合計値より大きい 場合はこの限りではない。		
<u> </u>			<u> </u>					MHIOCOLKY CIO.ON 10		

編	章	節	条	枝番	工種	測	色項 目		測定基準	測 定 箇 所 摘
6	4	6	2		床版工	基準	丰 高	± 20	基準高は、1 径間当たり2 箇所(支点付近)で、1 箇所当たり両	
道	鋼	床				厚	à t	+ 20 ~ -10	端と中央部の3点、幅は1径間当たり3箇所、厚さは型枠設置	
路編	橋上	版 工				幅	W	± 30	ー時におおむね 10 mic 1 箇所測定。 (床版の厚さは、型枠検査をもって代える。)	
	部					鉄筋()有効高さ	± 10	1 径間当たり3 断面(両端及び中央)測定。1 断面の測定箇所は	
						鉄筋	らのかぶり	設計値以上	断面変化毎 1 箇所とする。	
								± 20	1 径間当たり3 箇所(両端及び中央)測定。	
						鉄 角	第 間 隔	+ 10 (有効高さがマイナスの場合)	1 箇所の測定は、橋軸方向の鉄筋は全数、橋軸直角方向の鉄筋は加工形状毎に 2mの範囲を測定。	
6	4	7	2	1	支承工	据付	けけ高さ	± 5	支承全数を測定。	
道路	鋼橋.	支承			(鋼製支承)	可動支承の橋軸 方向のずれ 支承中心間隔 (橋軸直角方向) 下沓の水平度 橋軸方向 橋軸直角方向 同一支承線上の可動支承のずれの相 対誤差	±10	B:支承中心間隔(m)		
編	上部	I					4 + 0.5 × (B-2)			
								1 / 100	1	
						ト省の水平度	橋軸直角方向	1 / 100	1	
								±5]	
6	4	7	2	2	支承工	対誤差 据 付 け 高 支承中心間	け高さ	± 5	支承全数を測定。	
道 路	鋼橋	支 承			(ゴム支承)	支承	中心間隔	+ 10	■ 上部構造部材下面とゴム支承面との接触面及びゴム支承と台座 ■ モルタルとの接触面に肌すきが無いことを確認。	
編	出部	Н				支承の水平度	橋 軸 方 向橋軸直角方向	1 / 300 以下、 5mm 以下		
6	4	8	2	1	伸縮装置工	据付	けけ高さ	舗装面に対し0~-2	両端及び中央部付近を測定。	
道 路	鋼橋	橋 梁			(ゴムジョイント)	表面	iの凹凸	3) 高さ
編	上部	米付属物工				仕上	<u>-</u> げ高さ	舗装面に対し0~-2		舗装面 2//////
6	4	8	2	2	伸縮装置工	高 据	付け高さ	±3	高さについては車道端部、中央部各3点計9点。	
道 路	鋼橋	橋 梁			(鋼フィンガ-ジョイント)	き 車線方向	各点誤差の相対差	3	■ 縦方向及び横方向間隔は両端、中央部の計3点。	
編	上	付				き 車線方向各点誤差の相対差表面の凹凸 歯型板面の歯咬み合い部の高低差	iの凹凸	3		
		属					み合い部の高低差	2		Ċ
		物				縦 方	向間隔	± 2		
		エ					向間隔	±5		- · - · · - · - · - · A - · - · - · - · - · B
						仕上	_ げ高さ	舗装面に対し0~-2		В
										舗装面 一川 □

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規 格 値	測定基準	測 定 箇 所	摘要
6	4	8	5		地覆工	地覆の幅 W ₁	+ 20 ~ -10	1 径間当たり両端と中央部の3箇所測定。	W1 W2	
道	鋼	橋				地覆の高さ h	+ 20 ~ -10	1	 	
路編	橋上	梁 付				有効幅員 W ₂	+ 30 ~ 0			
利用	部	属							h	
		物							 	
		エ								
									L	
6	4	8	6		 橋梁用防護柵工	幅	+ 10 ~ -5	1 径間当たり両端と中央部の3箇所測定。		
道	鋼	橋	7		橋梁用高欄工	 高 さ	± 10	「日間当たり門列で下入部の「田川州人」。		
路	橋	梁				10, C	± 10			
編	上郊	付屋								
	部	属 物								
		I								
6	4	8	8		<u></u> 検査路工	<u> </u>	±3	1 ブロックを抽出して測定。		
道	鋼	橋				高さ	± 4	1		
路編	橋上	梁 付					İ	1		
利冊	部	属								
		物								
		エ								
6	4	9 -	3		既製杭工			第 1 編 3-4-4 既製杭工に準ずる。		
道 路	鋼棒	步 道								
編	橋上	橋								
Milia	部	本								
		体								
		エ								
6 道	4 鋼	9 步	4		場所打杭工			第 1 編 3-4-5 場所打杭工に準ずる。		
路	橋	道								
編	上	橋								
	部	本								
		体								
6	4	工 9	5		橋脚フ-チング工	基準高	± 20	┃		
道	鋼	步	٦		(「型)	<u>奉 年 向</u> フ-チング幅 w	1	荷軸方向の断面寸法は中央及の両端部、その他は寸法表示菌 		
路編	橋	道			(T型)	ノーナンク幅 W (橋軸方向)	-50		<u></u>	
編	上	橋				フ-チングの高さh	-50	1		
	部	本体				フ-チング長 ��	-50	1		
		т Т				, , , , , , uL		1		
									<u> </u>	
6	4	9	6			全 長·支 間	-	各桁毎に全数測定。		+
道	鋼	步				桁・トラスの		一連毎の両端及び支間中央について各上下間を測定。		
路編	橋	道				中心間距離	-	~ → ハニンパペク ~ ニューン (につ x ・ く 口 工 1,1回 c / 20 / V)		
編	上部	橋 本					L 40m±25	主桁を全数測定。		
	טם	体				そり	L>40m			
		I					± {25 + (L-40)}			

編	章	節	条	枝番	工種	1		規格値	測定基準測定箇所摘
6道路編	4 鋼橋上部	9 歩道橋本体工	7		現場塗装工(歩道橋)			b.測定値の最小値は、目標塗膜	
6 道路編 	5コンクリ・ト橋上部工	3 工場製作工	2		プレビ-ム用桁製作工		フランジ幅w(m) 腹板高 h(m)	±2w 0.5 ±30.5 < w 1.0 ±41.0 < w 2.0 ±(3+w/2)2.0 < w	A 支点及び各支間中央付近を測定。 I 型プレート ガーター
						材	フランジの直角度 (mm)	w / 200	各支点及び各支間中央付近を測定。
							部材長 Lī(m)	±3Lo 10 ±4Lo>10	原則として仮組立をしない部材について主要部材全数で測定。
						仮組立時	主桁のそり	-5~ + 5 L 20 -5~ + 10 20 < L 40	各主桁について 10~12m間隔を測定。
道路編	5コンクリ・ト橋上部工	3工場製作工	3		橋梁用防護柵製作工	部材	部 材 長 Lu(m)		図面の寸法表示箇所で測定。

編	章	節	条	枝番	工種		測定項目		測定基準	測 定 箇 所	摘要
6 道 路 編	5 コ	3工場製作工	4		一 鋼製伸縮継手製作工	部材	部材長 w(m)	-5 ~ + 10w 10 -5 ~ + (5 + w/2)w > 10	製品全数を測定。	₩ 	
	- 卜橋上部工					組	組合せる伸縮装置との高さの差 1(mm) フィンガ-の食い違い 2(mm)	設 計 値 ±4 ±2	両端及び中央部付近を測定。	<u> </u>	
										(実測値) δ ₂ 	
6 道路 編	5コンクリ - ト橋上部工	3工場製作工	5		工場塗装工				第1編3-3-15 工場塗装工に準ずる。		
6道路編	5 コ	4コンクリ - ト主桁製作工	2	1	プレテンション桁購入工 (けた橋)		桁長 L(mm) 断面の外形寸法 (mm) 橋 桁 の そり 1(mm) 横方向の曲がり 2(mm)	± L / 1000 ± 5 ± 8 ± 10	桁全数について測定する橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JIS 製品の場合は JIS 認定工場の成績表に代えることができる。 JIS 製品以外は JIS 製品に準ずる。	L δ,	

編	章	節	条	枝番	工種	測 定 項 目		測定基準	測定箇所	商要
6 道	5	4	2		プレテンション桁購入工 (スラブ橋)	桁長 L(mm)	± 10L 10m ± L / 1000L > 10m	桁全数について測定する橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JIS 製品の場合は JIS 認定工場の成績表に代えることがで		<u> </u>
路編	11-	コンク			(ハノノ1同)	断面の外形寸法 (mm)	±1710001710111	」はの、JIS 製品の場合は JIS 認定工場の成績表にてんることができる。 JIS 製品以外は JIS 製品に準ずる。		
	IJ - L	IJ - L				橋 桁 のそり	± 8	_		
	橋上部	ト主桁割				横方向の曲がり ₂ (mm)	±10		L.	
	工	製 作 工								
6		4	3		ポストテンションT(I)桁製作工	幅(上) W ₁	+ 10	桁全数について測定。	δ ₁	
道 路	コン	コン				幅(下) W ₂	-5 ±5	横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 析断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。	\``` →	
編	ク	ク					± 5 + 10	一口:スパン長		
	ال -	ال -				高さり	-5			
	ト橋上部	ト主桁製				桁 長 L スパン長	L < 15± 10 L 15± (L-5) かつ -30mm 以内		h	
	工	表 作 工				横方向最大タワミ	0.8nL			
									W2	
6		4	4		プレキャストセグメント桁購入工		-	桁全数について測定。桁断面寸法測定箇所は、図面の寸法表示		
道 路	コン	コン				断面の外形寸法(mm)	-	箇所で測定。		
編	ク	ク								
	ال -	ار -								
	<u>اج</u>	<u>۲</u>								
	橋 上	主 桁								
	部	製								
		作 T								
6	_	4	5		プレキャストセグメント桁組立工		L < 15 ± 10	桁全数について測定。		
道路編	コンク	コ ン ク				桁 長 吐 スパン長	L 15…±(L-5) かつ -30mm 以内	横方向タワミの測定は、ブレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 Lu:スパン長		
, reging	ý	IJ				横方向最大タワミ	0.8 _I L			
	-	- -								
	橋	主 +/-								
	上 部	桁 製								
	I	作								
		上								

編	章	節	条	枝番	工種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
6 道路編	5コンクリ - ト橋上部工	4コンクリ - ト主桁製作工	6		プレビ-ム桁製作工	幅 W 高 さ h 桁 長 LL スパン長 横方向最大タワミ	±5 +10 -5 L < 15±10 L 15±(L-5) かつ -30mm 以内	析全数について測定。 □横方向タワミの測定は、ブレストレッシング後に測定。 一桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 □ Lu:スパン長	h w	
6 道路編	5コンクリ - ト橋上部工	4コンクリ - ト主桁製作工	7 8 9		PCホロ-スラブ製作工 RC場所打ホロ-スラブ製作工 PC版桁製作工	基準高 幅 W1,W2 厚 さt 桁 長 LL スパン長 横方向最大タワミ	±20 +30~-5 +20~-10 L<15±10 L 15±(L-5) かつ -30mm 以内	■ 桁全数について測定。 ■ 基準高は、1 径間当たり 2 箇所(支点付近)で 1 箇所当たり両端 ■ と中央部の 3 点、幅及び厚さは 1 径間当たり両端と中央部の 3 ■ 箇所。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 L□: スパン長	t W1	
6 道路編	5コンクリ - ト橋上部工	4 コンクリ・ト主桁製作工	10		P C 箱桁製作工 P C 片持箱桁製作工	基準高幅(上) W ₁ 幅(下) W ₂ 内空幅 W ₃ 高 さ h ₁ 内空高さ h ₂ 析 長 L スパン長	±20 +30~-5 +30~-5 ±5 +10 -5 +10 -5 L<15±10 L 15±(L-5) かつ -30mm 以内	析全数について測定。 基準高は、1 径間当たり 2 箇所(支点付近)で 1 箇所当たり両端 と中央部の 3 点、幅及び厚さは 1 径間当たり両端と中央部の 3 = 箇所。 _ 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 Lロ: スパン長	hı Wi Wi Wi Wi Wi Wi Wi Wi Wi Wi Wi Wi Wi	

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規 格 値	測定基準	測 定 箇 所	摘要
6	5	4	12		PC押出し箱桁製作工	幅(上) W ₁	+ 30 ~ -5	桁全数について測定。		
道 路	7	コン				幅(下) W ₂	+ 30 ~ -5	横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。		
編	ク ク	ク				内空幅 W3	±5	──桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 — Lu:スパン長		
	IJ -	у -				高 さ h ₁	+ 10 -5		* W	
	ト 橋	ト 主 桁				内空高さ h ₂	+ 10 -5			
	上部工	桁製作工				桁 長 LL スパン長	LI < 15±10 LI 15 ± (LI-5) かつ -30mm 以内		h_1 h_2 w_5 w_2	
						横方向最大タワミ	0.8 1 L			
	<u> </u>									
6 道	5	5	2 3		架設工	全 長・支 間	-	各桁毎に全数測定。		
路	\ \ \	コン	4		(クレ-ン架設) (架設桁架設)	桁の中心間距離	-	一連毎の両端及び支間中央について各上下間を測定。		
編	ノクリ・ト橋上部工	ンクリ - ト橋架設工	5 6 7		(栄設竹栄設) 架設支保工(固定) 架設支保工(移動) (片持架設) (押出し架設)	₹ I)	-	主桁を全数測定。 		

編	章	節	条	枝番	工種	測 定 項 目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
6	5	6	2	_	床版·横組工	基 準 高	± 20	基準高は、1径間当たり2箇所(支点付近)で、1箇所当たり両		
道		床				幅 w	± 30	端と中央部3点、幅は1径間当たり3箇所、厚さは型枠設置時		
路編	ク	版				厚 さ t	+ 20 ~ -10	におおむね 10 ㎡に 1 箇所測定。(床版の厚さは、型枠検査をもって代える。)		
	IJ	横 組				鉄筋の有効高さ	± 10	1 径間当たり3 断面(両端及び中央)測定。1 断面の測定箇所は		
	<u>-</u>	工				鉄筋のかぶり	設計値以上	断面変化毎 1 箇所とする。		
	橋						± 20	1 径間当たり3 箇所(両端及び中央)測定。		
	上 部					鉄筋間隔	+ 10 (有効高さがマイナスの場合)	1 箇所の測定は、橋軸方向の鉄筋は全数、橋軸直角方向の鉄筋 は加工形状毎に 2mの範囲を測定。		
	工						(Table 1)	1		
6		7	2	1	支承工	据付け高さ	±5	支承全数を測定。		
道路	ン	支 承			(鋼製支承)	可動支承の橋軸 方 向 の ず れ	± 10			
編	ク リ -	エ				支承中心間隔 (橋軸直角方向)	±5			
	ト橋上部工					橋 軸 方 向 下沓の水平度 橋軸直角方向	1/100			
						同一支承線上の可動支承のずれの相 対誤差	5			
6	5	7	2	2	支承工	据付け高さ	±5	支承全数を測定。		
道	J	支	_	_	スポエ (ゴム支承)	支承中心間隔	±10	マダキ双を別た。 上部構造部材下面とゴム支承面との接触面及びゴム支承と台座		•
路編	ンクリ - ト橋上	工				大学・パーロ 南 軸 方 向 支承の水平度 橋軸直角方向	1 / 300 以下、 5mm 以下	=モルタルとの接触面に肌すきが無いことを確認する。 =		
	部 工 -									
6 道	5	8 橋	2	1	伸縮装置工 (ゴムジョイント)	据付け高さ	塗装面に対し0~-2	両端及び中央部付近を測定。		
路	ン	梁				表面の凹凸	3	-		
編	クリ・ト橋上部工	付属物工				仕上げ高さ	塗装面に対し0~-2			

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測 定 箇 所 摘要
6	5	8	2		伸縮装置工	据付け高さ	±3	高さについては車道端部、中央部各3点計9点。	
道路編	コンカ	橋 梁 付			(鋼フィンガ-ジョイント)	車線方向各点 誤差の相対差	3	縦方向及び横方向間隙は、両端、中央部の計3点。	
利用	IJ	属				表面の凹凸	3		
	- -	物工				歯型板面の歯咬み 合い部の高低差	2		
	橋					縦 方 向 間 隙	±2		
	上 部					横方向間隙	±5		
	Ī					仕上げ高さ	舗装面に対し0~-2		
									舗装面 一川 高さ
6	5	8	5		地覆工	地覆の幅 W ₁	+ 20 ~ -10	1 径間当たり両端と中央部の3箇所測定。	
道 路	7	橋梁				地覆の高さ h	+ 20 ~ -10		W1 W2
編	ク	付				有効幅員 W ₂	+ 30 ~ 0		
	・リ・ト橋上部工	属 物 工							h
6 道	5	8 橋	6 7		橋梁用防護柵工	幅	+ 10 ~ -5	1 径間当たり両端と中央部の 3 箇所測定。	
路編	Tンクリ - ト橋上部工	梁付属物工			橋梁用高欄工	高 <u>さ</u>	± 10		
6 道路編	5 コンクリ・ト橋上部工	8橋梁付属物工	9		現場塗装工		b.測定値の最小値は、目標塗膜	塗装終了時に測定。 1 ロットの大きさは 500 ㎡とする。 1 ロット当たりの測定数は 25 点とし、各点の測定は 5 回行い、その平均値をその点の測定値とする。	

編	章	節	条	枝番	工種	測 定 項 目	規格値	測定基準		摘要
6 道 路 編	6トン ル (N A T M)	4 支保工	3		吹付工	吹 付け厚さ	特殊な箇所は設計吹付け厚の1	施工延長 20m毎に図に示す。 (1)~(7)及び断面変化点の検測孔を測定。 注)良好な岩盤とは、道路トンネル技術基準(構造編)にいう地盤 等級A又はBに該当する地盤とする。	(4) (3) 寝エコンクリート 吹付コンクリート (5) S.L. (7) インパート	
6	6	4	4	<u>. </u>	ロックボルト工	位置間隔	-	施工延長 20m毎に断面全本数検測。		İ.
道	7 ,	支 保				角度	-			
路編	ネ	 				削 孔 深 さ	-			
7-41-2	ルル					孔 径	-			
	(N A T M					突出量	プレ-ト下面から 10cm 以内			
6	6	5	3	•	覆エコンクリートエ	基準高(拱頂)	± 50	(1) 基準高、幅、高さは、施工 40mにつき 1 箇所。		.
道 路	۲ ک	覆工	4		側壁コンクリート工	幅 w(全幅)	-50	(2) 厚さ (イ) コンクリ-ト打設前の巻立空間を 1 打設長の終点を図に示す各	t,	
編	ネ					高さh(内法)	-50	(1) コンフラー 打成前の営立王間を「打成役の派派を囚にがする」 点で測定。中間部はコンクリート打設口で測定。		
	ル					厚さ t ₁ ,t ₂	設計値以上	(ロ) コンクリート打設後、覆エコンクリートについて1打設長の端面(施	(1) G	
	N A T M					延 長 L		工継手の位置)において、図に示す各点の巻厚測定を行う。 (八) 検測孔による巻厚の測定は図の(1)は 40mに 1 箇所、(2) ~ (3)は 100mに 1 箇所の割合で行う。なお、トンネル延長が 100m以下のものについては、1 トンネル当たり 2 箇所以上の検測孔による測定を行う。ただし、以下の場合には、左記の規格値は適用除外とする。 ・良好な地山における岩又は吹付コンクリートの部分的な突出で、設計覆工厚の 3 分の 1 以下のもの。なお、変形が収束しているものに限る。 ・異常土圧による覆工厚不足で、型枠の据付け時には安定が確認されかつ別途構造的に覆工の安全が確認されている場合。・	h (2) (3) 復工コンクリート (5) S.L. (6) (7) インバート	
6 道	6	5 定	5		床版コンクリートエ	幅 w	-50	施工延長 20mにつき 1 箇所、延長 20m以下のものは 1 施工箇		
追 路	ン	覆工				厚 さ t	-30	所につき 2 箇所。		
編	ネル(NATM)	_								

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
6道路編	6トンネル (N A T M)	6インバ・トエ	4		インバ-ト本体工	幅 w(全幅) 厚さt ₁ ,t ₂ 延 長 L	-50 設計値以上 -	(1) 幅は、施工 40mにつき 1 箇所。 (2) 厚さ (イ) コンクリ-ト打設前の巻立空間を 1 打設長の終点を図に示す各点で測定。中間部はコンクリ-ト打設口で測定。 (ロ) コンクリ-ト打設後、覆エコンクリ-トについて 1 打設長の端面(施工継手の位置)において、図に示す各点の巻厚測定を行う。 (八) 検測孔による巻厚の測定は図の(1)は 40mに 1 箇所、(2) ~ (3)は 100mに 1 箇所の割合で行う。なお、トンネル延長が 100m以下のものについては、1 トンネル当たり 2 箇所以上の検測孔による測定を行う。ただし、以下の場合には、左記の規格値は適用除外とする。 ・異常土圧による覆工厚不足で、型枠の据付け時には安定が確認されかつ別途構造的に覆工の安全が確認されている場合。 ・鋼ア-チ支保工、ロックボルトの突出。	t, (1) GL 覆エコンクリート (2) (3) 覆エコンクリート (5)s.L. (7) インバート w	
6道路編	6トンネル(N A T M)	7坑内付帯工	5		地下排水工	基準高幅 W ₁ , W ₂ 溶 さ h 延 長 L	± 30 -50 -30 -200	施工延長 20mにつき 1 箇所。 延長 20m以下のものは 1 施工につき 2 箇所。 1 施工箇所毎		
6道路編	6トンネル(NATM)	8 坑門工	4		坑門本体工	基準高 幅 W ₁ , W ₂ 高 h 3m さ h 3m 延 長 L	± 50 -30 -50 -100 -200	図面の主要寸法表示箇所で測定。		

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値	測定基準	測定箇所調
6	6	8	5		明り巻工	基準高(拱頂)	± 50	基準高、幅、高さ、厚さは、施工延長 20mにつき 1 箇所を測定。	+ 1
道	۲	坑				幅 w(全幅)	-50	なお、厚さについては図に示す各点 ~ において、厚さの測定を	<u> </u>
路編	ンネ	門工				高さh(内法)	-50	一 行う。	
利用	ル	_				厚 さ t	-20		// h
	(延 長 L	-	1	f - [
	N							╡	
	A								
	T M)								(アーチ部) (600) (600) (600) (10
6	7	5	3		覆エコンクリートエ	基準高(拱頂)	± 50	(1) 基準高、幅、高さは、施工 40mにつき 1 箇所。	+ 1
道	۲	覆				幅 w(全幅)	-70	(2)厚さ	<u>↓</u>
路編		エ				高さh(内法)	-70	➡(イ) コンクリ-ト打設前の巻立空間を1打設長の中間と終点を図に ➡ 示す各点 ~ で測定。	
Milita	ル					厚 さ t	-50	■	// h
	(延 長 L	-	工継手の位置)において、図に示す各点 ~ の巻厚測定を	f (
	矢							行う。ただし、上部半断面先進工法の場合 ~ については	
	板							上半のセントルの間隔程度でよい。 (ハ) せん孔による巻厚の測定は図の は 40mに 1 箇所、 ~	
								は 100mに 1 箇所の割合で行う。 なお、トンネル延長が 100m 以下のものについては、1トンネル当たり 2 箇所以上のせん孔に	Φ Φ ®
								よる測定を行う。ただし、漏水の多い場合などで上記によること	
								が好ましくない場合は、監督員の指示により間隔を拡げることが できる。	(アーチ部) 60 60
									④ (側壁部)
									® → ↓
									8 9 10

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規格値	測定基準	測 定 箇 所	摘要
6	7	5	4		床版コンクリートエ	幅 w	-50	施工延長 20mにつき 1 箇所、延長 20m以下のものは 1 施工箇		
道 路 編	トンネル(矢板)	覆工				厚 さ t	-30	所につき 2 箇所。		
6		6	3		インバ-ト本体工	幅 w(全幅)	-50	(1) 基準高、幅、高さは、施工 40mにつき 1 箇所。		
道路編	ンネル(インバ - トエ				厚さ t ₁ , t ₂ 延 長 L	設計値以上 -	(2) 厚さ (イ) コンクリ-ト打設前の巻立空間を 1 打設長の中間と終点を図に示す各点(1) ~ (10)で測定。 (ロ) コンクリ-ト打設後、覆エコンクリ-トについて 1 打設長の端面(施工継手の位置)において、図に示す各点(1) ~ (10)の巻厚測定を行う。ただし、上部半断面先進工法の場合(4) ~ (7)については上半のセントルの間隔程度でよい。 (八) せん孔による巻厚の測定は図の(1)は 40mに 1 箇所、(2) ~ (3)は 100mに 1 箇所の割合で行う。なお、トンネル延長が 100m以下のものについては、1 トンネル当たり 2 箇所以上のせん孔による測定を行う。ただし、漏水の多い場合などで上記によることが好ましくない場合は、監督員の指示により間隔を拡げることができる。	h (1) CL 覆エコンクリート (2) (3) では、 (5) s.L. (7)	
6	7	7	4		地下排水工	基 準 高	± 30	施工延長 20mにつき 1 箇所。	. w, .	
道 路	トン	坑 内				幅 W ₁ , W ₂	-50	延長 20m以下のものは 1 施工につき 2 箇所。		
編	ネ	付				深 さ h	-30		1115111	
	ル(矢板)	帯工				延 長 L	-200	1 施工箇所毎	$\begin{array}{c c} & & \\ \hline & & \\ \hline & & \\ \hline & & \\ \hline \end{array}$	
6 道 路 編	10 共同溝	3工場製作工	3		工場塗装工			第 1 編 3-3-15 工場塗装工に準ずる。		

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規 格 値	測定基準	測 定 箇 所 摘要
6	10	5	2		現場打ち躯体工	基準高	± 30	両端・施工継手箇所及び図面の寸法表示箇所で測定。	
道	共	現				厚 さ t	-20		
路編	共同溝	場 打					-30		
利冊	件	5				内空高h	± 30		
		構				ブロック長 L	-50		
		築							
		エ							·
									twtwtwt
									tī tī tī
							·		
									h h h h h h
6	10	5	5		カラ-継手工	厚 さ t	-20	図面の寸法表示箇所で測定。	
道	共 同	現場				幅 w	-20	7	
路編	溝	場 打				長さし	-20		↑ ↑ ↑
7412	,,,	ち							t T
		構 築							<u> </u>
		X I							
									├
									w
6	10	5	6	1	防水工 (防水)	幅 w	設計値以上	両端・施工継手箇所の底版・側壁・頂版で測定。	
6 道 路 編	10 共同溝	5 現 場 打			(防水)			7	
編	進	场 打							
		ち							
		構							w
		築 工							
6 道	10 共同溝	5 現	6	2	防水工	厚 さ t	設計値以上	両端・施工継手箇所の「四隅」で測定。	
坦 路	月日	現 場			(防水保護工)				
路編	溝	打							t <u> </u>
		ち ##							"#
		構 築							
		Ĭ							

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所擁
6	10	5	6	3	防水工	高 さh	-20	図面の寸法表示箇所で測定。	
道	共同	現			(防水壁)	幅 w	± 50	1	t
路編		場 打				厚 さ t	-20	7	Ir
MAIG	/1-3	5						7	
		構							h
		築 工							<u> </u>
		_							, w
6	10	6	2		プレキャスト躯体工			施工延長 20mにつき 1 箇所、延長 20m以下のものは 1 施工箇	
道	10 共	プ				基 準 高	± 30	所につき2箇所。ただし、基準高の適用は据付後の段階検査時の	L
路編	同溝	レキ				77 = .	200	み適用する。	₹
MAIO	713	7				延長し	-200	延長∶1 施工箇所毎	
		ス・							
		構							
		築工							
		_							
6 道	11 電	3 電	2	•	管路工	基準高	± 30	接続部(地上機器部)間毎に1箇所。	Ę.
路	線	線				延長し	-200	接続部(地上機器部)間毎で全数。 【管路センタ-で測定】	
編	線共	共						【旨店 ピノク・C 別足】	:0:0:0 0 00
	同溝	同溝							000000
	/#3	工							
									
									T
									\
									接続部接続部
									(地上機器部) (地上機器部)
									VG-1848417
6	11	3	3		プレキャストボックス工	基 準 高	± 30	接続部(地上機器部)間毎に1箇所。	į.
道 路	電線	電 線							
編	共	共							
	同	共同							
	溝	溝工							
		エ							
L									

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測 定 箇 所 摘要
6	11	3	4	Ì.	現場打ちボックス工	基 準 高	± 30	両端・施工継手箇所及び図面の寸法表示箇所で測定。	
道 路	電炉	電線				厚 さ t	-20		
編	線共	共				内空幅w	-30		, i, , , ,
	同	同				内空高h	± 30		
	溝	溝				ブロック長 L	-50		
		エ							
									·
									twtwtwtwt
						<u> </u>			
									h h h h h
6	11		2		ハンドホ-ルエ	基 準 高	± 30	1 箇所毎	t ₅ —
道 路	電線	付帯				厚 さt ₁ ~ t ₅	-20	は現場打部分のある場合	
編	線共	設				幅 W ₁ , W ₂	-30		W ₁
	同	備				高 さh ₁ , h ₂	-30	_	t4 + L
	溝	エ							t ₁
									h_1 h_2
									_

編	章	66	夕	枝番	工 種	測 定 項 目		測	定 基 準	測 定 箇 所 摘要
利用 1	早	빖	示	(文)	上性	測 足 垻 日	况 恰 旭	プレ-トガ-タ-	トラス・ア-チ等	
6 道 ;	14 道 路	3 工 場	4		桁補強材製作工		±2w 0.5 ±30.5 < w 1.0	主桁·主構	各支点及び各支間中央付近を 測定。	₩ <
編=	修	場製作工				フランジ 幅 w(m) 腹 板 高 h(m) 腹 板 間 隔 b (m)	±41.0 < w 2.0 ± (3 + w / 2)2.0 < w	床組など	構造別に、5部材につき1個抜き取った部材の中央付近を測定。	h h h h h h h h h h h h h h h h h h h
						フランジの直角度 (mm)	w / 200	主桁	各支点及び各支間中央付近を 測定。	w/2
						圧縮材の曲がり (mm)	Lu / 1000	-	主要部材全数を測定。	δ

							規 規					
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	個々の 測定値 (X)	平均の 測定値 (X ₁₀)	測定基準	測 定 箇 所	接要	
6	14	4 舗	3		路面切削工	厚 さ t	-7		厚さは 40m毎に現舗装高さ切削後の基準高の差で算出する。 測			
道路編	路路岩					幅 w	20		定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 延長 20m未満の場合は、2 箇所 / 施工箇所とする。断面状況 で、間隔、測点数、厚さを変えることが出来る。測定方法は自動横 断測定法によることが出来る。	£		
6 道路 編	14 道路修繕	4舗装修繕工	4		舗装打換え工	路 厚さ t 盤 幅 w 工 延長 L 舗 厚さ t 設 幅 w 工 延長 L	-5 -1 該当	工種 50 00 工種 25 00	各層毎1箇所/1施工箇所	w w w w w w w w w w w w w w w w w w w		
6 道 路 編	14 道路修繕	舗装修繕	5	. 切削オ・バ・レイエ		幅 w -25 -	-	厚さは40m毎に現舗装高さ切削後の基準高の差で算出する。測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。延長20m未満の場合は、2箇所/施工箇所とする。断面状況で、間隔、測点数、厚さを変えることが出来る。測定方法は自動横断測定法によることが出来る。				
		I				延長 L 平 坦 性	3mプロフィルメ-タ	00 /-()2.4mm 以 き)()1.75mm				
6 道	道 道		6	6		オ-バ-レイエ	厚さ t 幅 w		9	厚さは 40m毎に現舗装高とオ-バ-レイ後の基準高の差で算出する。	Ę	1
路編	路 修	装 修				 延長 L	1	00	測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。	:		
פייועיה	繕	繕工				平 坦 性	3mプロフィルメ-タ 下直読式(足付: 以下	/-()2.4mm 以き)()1.75mm	幅は、延長 20m毎に 1 箇所の割とし、延長 20m未満の場合は、 2 箇所 / 施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。	#		
										維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。		

編	章	節	条	枝番	工 種		測定項目	規 格 値	測定基準	測 定 箇 所 打	商要
6	14	4	7		路上再生路盤工	路	厚さ t	-30	幅は延長 20m毎に 1 箇所の割で測定。厚さは、各車線 200m毎		
道	道	舗				盤	幅 w -50		に左右両端及び中央の3点を掘り起こして測定。	€.	
路編	路修	装 修				エ	延長 L	-100			
利用	19 繕									t → //3// //////	
6	14	4	8		路上表層再生工		厚さ t	-9	幅は延長 20m毎に 1 箇所の割で測定。厚さは、1000 ㎡毎に、現		\dashv
道	道 路	舗				舗	幅 w	-25	舗装高と舗設後の基準高の差を、車線中心線、車線端及びその		
路編	路修	装 修				設	延長 L	-100	中心とする。	<u></u>	
利用	繕	繕				エ	リペ-ブの場合再生表層厚 t2	-9	-		
	,,,,	Ī					平坦性	2.4	1		
										j , 現舗装w	
6	14	4 舗 装	9		プレキャストRC舗装版工		基 準 高	± 20	施工延長 20mにつき 1 箇所、40m以下は 1 施工箇所につき 2 箇所。		
道 路	道 路						幅 w	± 30			
編	修繕	修繕工					延 長 L	-200	る。		
6 道 路 編	14 道路修繕	4舗装修繕	10		步道舗装修繕工				第 1 編 3-6-5 アスファルト舗装工に準ずる。		
6	14	工 5	2		サルサンチャン	<u> </u> 	原 ナ 1	20			
道	道	道			排水構造物修繕工	嵩上上	厚さけ	-20 -30	■施工延長 20mにつき 1 箇所、延長 20m以下のものは 1 施工箇 所につき 2 箇所。	<u>t</u>	
路	路	路					高 さ h 延 長 L	-30 -200	所につきと 園所。 一 取壊 し 寸法又は嵩上げ寸法が変化すれば、変化点毎に測定。 -	<u> t </u>	
編	修繕	構造物修繕工					<u>х</u> е (Х. L.	-200		h	

編	章	節	夂	枝番	工種	測定項目	規格値	測	定基準	測 定 箇 所	摘要		
利冊	早	디기	ᅏ	12 田	上 1 里	加足填 目	元 1 日 但	プレ-トガ-タ-	トラス・ア-チ等		加女		
6 道	14 道	6 橋	7		鋼桁補強工	フランジ幅 w(m) 腹板高 h(m) 腹板間隔 b (m)	±2w 0.5 ±30.5 < w 1.0 ±41.0 < w 2.0 ±(3+w/2)2.0 < w	主桁·主構	各支点及び各支間中央付近を 測定。	₩ 			
路編	14 道路修繕	梁修繕工						床組など	構造別に、5 部材につき 1 個抜き取った部材の中央付近を測定。	h h h			
										I 型プレート トラス弦材 ガーター			
								フランジの直角度 (mm)	w / 200	主桁	各支点及び各支間中央付近を 測定。	w/2	
						圧縮材の曲がり (mm)	Ln / 1000		主要部材全数を測定。	δ			
6	14	14 6 8 伸縮継手修繕工			厚さ t ₁ ,t ₂	-20	伸縮継手の両端部及び中央	部の3箇所を測定。					
道	道 道 橋 (ゴムジ 路 路 梁 編 修 修 繕 繕 工		(ゴムジョイント)	ゴムジョイント)	幅 W ₁ ~ W ₄	-20			■				
編									延 長 L	設計値以上			w ₁ w ₂ w ₅ w ₄

編	章	節	条	枝番	工 種	測 5	三項 目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
6	14	6	10	1	P C 橋支承修繕工·鋼桁支承	据 付 け 高 さ 可動支承の橋軸 方 向 の ず れ 支承中心間隔 (橋軸直角方向)		± 5	支承全数を測定。		
道路編	道 路 修	橋梁			修繕工 (鋼製支承)			± 10			
利用	繕	修 繕 工			_			±5			
		_				下沓の水平度	橋 軸 方 向	1 / 100			
						下自の小十皮	橋軸直角方向	1 / 100			
						同一支承線上の可動支承のずれの相 対誤差		± 5			
				2	P C 橋支承修繕工・鋼桁支承 修繕工	<u>.</u> 据付け高さ		± 5			1
						支承中心間隔		± 10			
					(ゴム支承)	ト谷の水平度	橋軸 方向橋軸直角方向	1 / 300 以下、 5mm 以下	────────────────────────────────────		
6 道 路 編	14 道 路 修	7 現 場 塗	6		コンクリート面塗装工				第 1 編 3-3-16 コンクリート面の塗装に準ずる。		
利用	繕	坐 装 工									